

聖書

創世記18章16～33節

18:16 その人たちは、そこを立って、ソドムを見おろすほうへ上って行った。アブラハムも彼らを見送るために、彼らといっしょに歩いていた。

18:17 【主】はこう考えられた。「わたしがしようとしていることを、アブラハムに隠しておくべきだろうか。

18:18 アブラハムは必ず大いなる強い国民となり、地のすべての国々は、彼によって祝福される。

18:19 わたしが彼を選び出したのは、彼がその子らと、彼の後の家族とに命じて【主】の道を守らせ、正義と公正とを行わせるため、【主】が、アブラハムについて約束したことを、彼の上に成就するためである。」

18:20 そこで【主】は仰せられた。「ソドムとゴモラの叫びは非常に大きく、また彼らの罪はきわめて重い。

18:21 わたしは下って行って、わたしに届いた叫びどおりに、彼らが実際に行っているかどうかを見よう。わたしは知りたいのだ。」

18:22 その人たちはそこからソドムのほうへと進んで行った。アブラハムはまだ、【主】の前に立っていた。

18:23 アブラハムは近づいて申し上げた。「あなたはほんとうに、正しい者を、悪い者といっしょに滅ぼし尽くされるのですか。

18:24 もしや、その町の中に五十人の正しい者がいるかもしれません。ほんとうに滅ぼしてしまわれるのですか。その中にいる五十人の正しい者のために、その町をお赦しにはならないのですか。

18:25 正しい者を悪い者といっしょに殺し、そのため、正しい者と悪い者とが同じようになるというようなことを、あなたがなさるはずがありません。とてもありえないことです。全世界をさばくお方は、公義を行うべきではありませんか。」18:26【主】は答えられた。「もしソドムで、わたしが五十人の正しい者を町の中に見つけたら、その人たちのために、その町全部を赦そう。」18:27 アブラハムは答えて言った。「私はちりや灰にすぎませんが、あえて主に申し上げるのをお許してください。

18:28 もしや50人の正しい者に5人不足しているかもしれません。その5人のために、あなたは町の全部を滅ぼされるでしょうか。主は仰せられた。「滅ぼすまい。もしそこにわたしが45人を見つけたら。」そこで、再び尋ねて申し上げた。「もしやそこに40人見つかるかもしれません。」すると仰せられた。「滅ぼすまい。その40人のために。」また彼は言った。「主よ。どうかお怒りにならないで、私に言わせてください。もしやそこに30人見つかるかもしれません。」主は仰せられた。「滅ぼすまい。もしそこにわたしが30人を見つけたら。」

18:31 彼は言った。「私があえて、主に申し上げるのをお許してください。もしやそこに20人見つかるかもしれません。」すると仰せられた。「滅ぼすまい。その20人のために。」18:32 彼はまた言った。「主よ。どうかお怒りにならないで、今一度だけ私に言わせてください。もしやそこに10人見つかるかもしれません。」すると主は仰せられた。「滅ぼすまい。その10人のために。」18:33 【主】はアブラハムと語り終えられると、去って行かれた。アブラハムは自分の家へ帰って行った。

8月22日  
とりなしの祈り  
創世記18章16～33節



今日の所はアブラハムと神様の真剣な取引

最初は50名でお願い、

50名から45名、

45名から40名、

40名から30名、

30名から20名、

20名から10名、

6回にわたって神様に譲歩をお願いしているところ  
です。

18:13 そこで、【主】がアブラハムに仰せられた。「サラはなぜ『私はほんとうに子を産めるだろうか。こんなに年をとっているのに』と言って笑うのか。18:14 【主】に不可能なことがあるか。わたしは来年の今ごろ、定めた時に、あなたのところに戻って来る。そのとき、サラには男の子ができています。」18:15 サラは「私は笑いませんでした」と言って打ち消した。恐ろしかったのである。しかし主は仰せられた。「いや、確かにあなたは笑った。」

理性や経験から実現不可能、

信じられなくて、笑っても当然のような

事態に「【主】に不可能なことがあるか。」

とアブラハムやサラのあきらめ、不信仰の笑いを認めつつも、それらを受け入れてサラには男の子ができている、と約束を主はされました。私たちの人生、私たちの教会においても不可能が可能となることを信じて行きましょう。疑う者になお語りかけられる主の愛を受け入れましょう。

この大切な告知の後、

18:16 その人たちは、そこを立って、ソドムを見おろすほうへ上って行った。アブラハムも彼らを見送るために、彼らといっしょに歩いていた。

ソドムのあった場所は現在は死海の南の  
湖底に沈んでいます。

ヘブロンの高台からははるか死海の  
南端のソドムの町が見えたようです。

18:22 その人たちはそこからソドムのほうへと進んで行った。アブラハムはまだ、【主】の前に立っていた。

アブラハムの所に3人の旅人が来ました。

そのうちの一人を【主】と書いています。

【主】とは神様、二人は天使。

神様がここで旅人の姿をとってアブラハムに現れています。

18:20 そこで【主】は仰せられた。「ソドムとゴモラの叫びは非常に大きく、また彼らの罪はきわめて重い。18:21 わたしは下って行って、わたしに届いた叫びどおりに、彼らが実際に行っているかどうかを見よう。わたしは知りたいのだ。」

二人の旅人の姿の天使はソドムの方に進んでいきました。アブラハムは旅人の姿になられた【主】の前に立ちはだかるようにしていました。

主の使いがソドム・ゴモラに行って町の罪をご覧  
になれば、さばき、滅亡はまぬかれない。

ソドムは裁かれる、滅ぼされる、  
でもあの町には甥のロトの一家がいる。  
アブラハムは主の前に立ちはだかって  
申しました。



18:23 アブラハムは近づいて申し上げた。「あなたはほんとうに、正しい者を、悪い者といっしょに滅ぼし尽くされるのですか。」

人間のアブラハムが神様に説教しているように、正しい者を悪者と一緒に滅ぼされるのですか。神様のご性質を盾にとって、神様に迫っています。

私たちがお祈りする時にも、神様のご性質、神様の約束されたみことばを盾に取って、人質として、担保にとって祈ること、神様に懇願することがあります。

25節ではもっと激しく神様を説得しています。

18:25 正しい者を悪い者といっしょに殺し、そのため、正しい者と悪い者とが同じようになるというようなことを、あなたがなさるはずがありません。とてもありえないことです。全世界をさばくお方は、  
公義を行うべきではありませんか。」

ソドムと一緒にロトの家族が裁かれなかったためのアブラハムの必死の懇願です。

ソドムの町にせめて50人くらいはロト一族で礼  
拝している人がいるだろうと思って  
50人から初めていきます。

最初は50人から始まりました。

ロトの家族は10名だったかもしれません。

ロトのしもべたち合わせると50名くらい。

ロトの家族は罪の町ソドムにいても  
せめて主を礼拝し、信仰を持っているだろう。ロト一族50人、主を礼拝していたらソドムを滅ぼさなさいください。

神様は50名いたらソドムの町を滅ぼしませんと約束されました。

ロトの家族10名は信仰を持っていても  
しもべたちは危ないな、  
と心配してアブラハムの信仰は10名まで  
低下していきました。

ロト夫婦、二人の息子、結婚した二人の娘とそ  
の婿、独身の二人の娘、この10人は  
祈って何とか信仰を持っていてくれるだろう。

最後、10名いたらソドムを滅ぼさないで、免除  
してくださいと祈りを終わりました。

すると主は仰せられた。  
「滅ぼすまい。その10人のために。」

アブラハムは10人で終わりました。

さらに続けて

もし、一人いたら、その一人の信仰、

祈りゆえ

ソドムを救ってくださいと叫べば、

神様はどうなさったでしょうね。



一人でもいたら滅ぼすまい、その一人のために、  
と言われたでしょうね。

信仰を持つ一人の尊さ

10人でも、たとえ一人でも、神の人の存在の意味は大きいのであります。

私たちは地の塩と今日の聖句にあげておきました。

伝道や証しが何もできなくても、そこに存在しているだけで、神様のお役に立つことができるのです。

家族親戚の中で一人であっても、会社の中で、学校の中で、地域の中で一人であってもその一人故、その集団を祝福して下さいます。貴重な一人です。

とりなしの祈りの大切さです。

神様は私たちの祈りを聞いて来てくださいます。

厚かましいほどの熱心な祈り  
ロトはケドルラオメルに捕らえられ  
連行され、アブラハムに助けられても  
礼も言わずにさっさと元のソドムに帰って行った。  
そんな礼儀のないロトのために熱心に、必死で  
祈るアブラハム。

不信仰なアブラハム、神様の約束を笑ってしま  
うサラ、彼らの不信仰にも飽きずに語りかけられ  
る神様。

神様の愛、熱心さ、赦し続ける愛、  
その力に導かれてアブラハムはロトのために祈り  
続けます。

私たちも家族のため、子供のため、親の救いの  
ために祈り続けましょう。

17:10 ヨシュアはモーセが言ったとおりにして、アマレクと戦った。モーセとアロンとフルは丘の頂に登った。

17:11 モーセが手を上げているときは、イスラエルが優勢になり、手を降ろしているときは、アマレクが優勢になった。

17:12 しかし、モーセの手が重くなった。彼らは石を取り、それをモーセの足もとに置いたので、モーセはその上に腰掛けた。アロンとフルは、ひとはこちら側、ひとはあちら側から、モーセの手をささえた。それで彼の手は日が沈むまで、しっかりそのままであった。



祈るモーセをアロンとフルが支えました。  
祈りの友、信仰の友の大切さ。

22:31 シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。

22:32 しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

今も、私たちの信仰がなくならないように  
とりなしの祈りをイエス様はしていただきます。

兄弟姉妹の名を呼び、祈りましょう。

祈り